

様式第 14 号 研究内容報告書

研究テーマ	「内務省初期養蚕政策と佐々木長淳」 ～我が国の養蚕に与えた影響についての検証～
研究者・団体名	「佐々木長淳研究会」 温井眞一、佐藤裕彦、小林健
研究要旨	<p>佐々木長淳は、澳国博覧会に参画しその後西欧の養蚕、製糸についての調査を行った。帰国後内務省勸業寮農務課内藤新宿試験場養蚕掛に就任した。内務省勸業寮では、養蚕飼育法が乱立している状況下、清温育や清涼育等の養蚕飼育法を比較する実証実験や、秋蚕、信州安曇風穴蚕種の実証実験、桑の栽培の研究等も行った。西欧から温度計、オーガスト温湿度計、顕微鏡を用いた蚕病の検査法を我が国に紹介し科学的養蚕飼育法の指導啓蒙に尽力した。後年は全国への養蚕指導や養蚕飼育法の質疑指導、青山御養蚕所の担当ともなった。また佐々木長淳は順気育（折衷育）を主唱し、県内外で順気社が設立された。次の点について研究を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 佐々木長淳が、内務省勸業寮で取り組んだ養蚕政策の検証（明治7年から明治12年） 2 佐々木長淳が、群馬県巡県指導で実施した養蚕指導の検証（明治18年10月等） 3 佐々木長淳が上記巡県指導で群馬県養蚕農家への質疑の内容 4 佐々木長淳が唱えた「順気育」の内容 5 佐々木長淳が、高山社の活動に与えた影響についての検証

研究内容

1 研究の内容

明治初期の蚕糸指導者佐々木長淳が取り組んだ初期内務省勸業寮における養蚕政策の分析及びその後の巡県養蚕指導や順気育の啓蒙や高山社養蚕技術への影響等の状況を研究した。

2 調査の方法

- 図書館の相互貸借制度を活用し、佐々木長淳や順気育に関する資料を収集した。
- 国立国会図書館、群馬県立図書館（小野寺文庫）、群馬県立文書館、群馬県立歴史博物館、高崎経済大学地域科学研究所、東京農工大学科学博物館等に出向き関連資料を収集し活用した。
- 佐々木長淳顕彰碑、山口正太郎墓誌、山田鷲五郎石碑、競進社、高山社跡等の現地視察を行った。
- 佐々木長淳の福井藩時代の業績については、福井県立文書館、福井市立郷土歴史博物館、福井県こども未来文化館等の出版物や担当者から協力を仰いだ。

3 上記調査による新資料等の発見や再確認

- ①明治21年11月改正後の「順気社規約」（高崎経済大学地域科学研究所蔵）→初見
- ②高山長五郎が佐々木長淳巡県講話を受講した際の蚕体等筆記（群馬県立歴史博物館）→初見

- ③高山長五郎から佐々木長淳宛顕微鏡提供の御礼（群馬県歴史博物館）→現物なので文字が鮮明
- ④明治19年4月に刊行された「群馬県巡県講話筆記」の入手
- ⑤佐々木長淳が内務省勸業寮内藤新宿試験場で実施した養蚕飼育法実証実験、信州安曇郡稲核村風穴蚕種の実証実験、秋蚕の実証実験等について、『内務省年報・報告書』により確認した。
- ⑥群馬県内の巡県講話について、どこの市町村で開催されたかを市町村史等で確認した。
- ⑦順気育法の他県への伝習について、各県の蚕糸業史等で確認した。
- ⑧佐々木長淳の福井県での業績について、福井県立文書館、福井市立郷土歴史博物館等に確認した。

4 本文

はじめに

明治初期の蚕糸指導者佐々木長淳が取り組んだ内務省初期勸業寮における養蚕政策の検証及びその後の巡県養蚕指導や順気育飼育法の啓蒙や高山社養蚕技術への影響等の状況を検証した。

第1 生い立ち・福井藩時代

佐々木長淳は天保元年（1830）福井藩の中級藩士の家に生まれた。嘉永6年（1853）に家督を相続した後江戸で大砲や小銃の操練法や製造法などの修行を命じられた。安政元年（1854）1月にペリーが再来航すると、探索の特命が下され黒船ポーハタン号に乗り込み艦内の大砲等を写し取った。長淳は安政4年（1857）には製造方頭取として洋式銃や弾薬製造の責任者となった。安政6年には洋式帆船「一番丸」を完成させた。慶応3年（1867）に藩命を受け最新の武器や織物機械の輸入や築港や鉱山技術を習得するため渡米しジョンソン大統領やグラント将軍に謁見した。7ヶ月間に渡り技術や知識を習得し、8門の3インチ砲、数百挺のレミントン後装銃などを持ち帰った。明治3年（1870）には藩の御雇い外国人担当となり、明治4年明治政府の役人となり東京に引っ越した。

第2 工部省時代

（1）勸工寮赤坂葵町製糸場

佐々木長淳は、官営二番目の製糸工場の建築を担当し明治5年11月に完成させた。イタリア式操糸法96人繰りの模範工場で動力は4馬力の水力を用いた。器械据付はドイツ人グレーフェン、製糸技術はスイス人ミューラーを雇った。各県から伝修生が派遣され製糸技術の伝習に寄与した。

（2）ウィーン万国博覧会

佐々木長淳は奥国博覧会事務局の一等事務官に命じられ、明治6年5月に開催された同博覧会日本館の建築担当となった。日本政府として初めて参画した博覧会であり日本の特産品を出品した他、西欧の優れた農業、養蚕、製造業等を学び、国内へ技術移転が図られた意義は大きい。

（3）西欧養蚕・製糸・絹糸業視察

佐々木はウィーン博覧会中に政府の特命を受け、ドイツ人グレーフェンと共にオーストリア、イタリア、スイスにおける養蚕、製糸、絹糸紡績業の調査を行った。

○オーストリアのゴリッチア町で、蚕事学校に赴き養蚕試験場長ボレルー氏に就き養蚕の学理及び顕微鏡の用方等を学び修了証書を得た。

○イタリアのパトヴァ町では、パトヴァ養蚕試験所長ヴェルソン氏に就き蚕児の生理、解剖、蚕種の製造法、蚕種の病毒検査の方法や顕微鏡の用方等や桑の種類を学んだ。

○イタリアのプチュレイ、ランカテ、コラの養蚕家を訪ね蚕種の貯蔵法、蚕種の病毒検査法、蚕

種の製造法、蚕毒の消毒法、蚕児の飼育法、蚕室の構造法、室内温暖法、空気の代謝法、上簇の方法等を視察した。

○イタリアのパルマ、トリイノ等の製糸場で繭蒸殺法、製糸場の運営等について学んだ。

○スイスのバーズルに赴き、ルツァーン絹糸紡績所で設計、操作、運営等の調査を行った。

上記の調査を取りまとめ、佐々木長淳とグレーフェンは明治6年6月及び10月に、養蚕役所の設置や養蚕学理の啓蒙や顕微鏡による蚕卵の検査、予防法への取り組みなどを提言した。

第3 内務省勸業寮時代

(1) 内藤新宿試験場養蚕掛

佐々木長淳は明治7年1月に内務省勸業寮勤務となり、同年3月に設置された内藤新宿養蚕試験掛となった。主に取り組んだのは、①様々な養蚕飼育法の実証実験、②12の桑園を拓き様々な桑樹の成育試験、③信州安曇村稲核の風穴蚕種と普通蚕種との成育比較実験、④温度計やオーガスト湿度計を用いた科学的養蚕法の啓蒙、⑤顕微鏡による蚕病検査法の教授などであった。

長淳は明治7年1月から明治12年3月まで、我が国の養蚕飼育の改良・改善に取り組んだがその取り組みに焦点を当て紹介したい。

ア 『内務省年報・報告書第一回』（明治8年7月～明治9年6月）による勸業寮養蚕政策（実際明治7年1月内務省勸業寮が発足したときからの取り組みも含まれる。）

① 桑樹

支庁内で固有の桑樹を培養し国内及び欧州等蚕種の試験をした。各地の桑樹の品種及び栽培方法等を知るため、福島、長野、熊谷等の十県に命令し、蚕業熟達者より経験の諸説を上申させた。

②夏蚕試験の実験 明治8年7月夏蚕試験に着手した。

③風穴蚕種の実証実験

明治8年8月信州安曇郡稲核村風穴の蚕種を近年貯蔵して飼養する者が少なくない。貯蔵する種を空気の流通するものとそうでないもの二通りの方法で春夏に貯蔵しこれを東京に送り試養した。

④国内の7つの養蚕飼育法の実証実験

明治9年熊谷、長野、福島の3県下より養蚕熟達者男女各2名を招募し、各地の慣法・養法、乾湿、温冷等により7室に分け天候や温度を記録した。（1室は病蚕用）

	飼育頭数 ア	完成繭		割合 (%)			病繭	無化卵	失蚕
		完成繭 イ	うち厚繭 ウ	イ/ア 完成率	ウ/イ 完成良率	ウ/ア 飼育等良率			
清冷育 上州金生種	5877	5434	4695	92.4	86.4	79.9	101	117	195
清温育 信州青白種	21500	15232	12529	70.8	82.2	58.3	1531	2289	2449
盛熟育 奥州今昔種	22017	10943	8714	49.7	79.6	39.6	6095	2350	2629
温暖育 上州金生種	4718	4042	3145	85.7	77.8	66.7	123	350	203
乾寒育 清国三化生種	1775	812	678	45.7	83.4	38.2	669	173	121
湿寒育 上州金生種	2044	659	570	32.2	86.4	27.9	103	1128	155

イ 『内務省年報・報告書第二回』（明治9年7月～明治10年6月）による勸業寮養蚕政策

①上州製夏蚕種と信州安曇村稻核風穴貯蔵の春蚕種を秋蚕育法で飼育した比較実験

夏蚕に比較し安曇風穴で貯蔵した蚕種による秋蚕の方が、種紙一枚当たりの孳化数が少ない。

種類	孳化 上蔭	原虫	成繭	失繭	病蚕	繭糸量 一斤
夏蚕 上州夏蚕種	7月10日 7月31日	7,975	5,706	575	635	8匁
秋蚕 安曇風穴貯蔵の春蚕種	8月25日 9月12日	2,639	2,267	76	155	7匁8分

② 蚕の蠶蛆病の防止研究実施

明治7年4月より内藤新宿試験場で蚕の蠶蛆病の防止研究を継続して実施した。

③明治10年の養蚕飼育法の実験

- ・本場試製の蚕種二種（金生・蒼白）と信州安曇村稻核にある風穴に貯蔵するものを研究した。
- ・第4回までは通常であったが、第5回以降は蚕卵の発生が少なく5割乃至6割に過ぎない。

回	飼養期間	原卵数	成繭数	厚繭	連続繭	薄繭
第一回養蚕 風穴種でない	4月30日～ 5月21日	24,521	19,372	17,569	907	896
第二回養蚕 風穴種	5月30日～ 6月20日	10,486	6,496	5,990	204	302
第三回養蚕 風穴種	5月30日～ 6月20日	10,537	7,018	6,281	204	533
第四回養蚕 風穴種	5月30日～ 6月20日	9,459	3,061	1,842	136	1,083
第五回養蚕 風穴種	5月30日～ 6月20日	9,888	330	222	99	9
第六回養蚕 風穴種	5月30日～ 6月20日	10,172	1,622	1,478	22	122
第七回養蚕 風穴種	5月30日～ 6月20日	11,284	1,021	989	38	94
第八回養蚕 風穴種	5月30日～ 6月20日	11,502	1,235	1,101	61	73

④野蚕育 信州安曇から7000粒の野蚕種を取り寄せ生育実験を実施した。

ウ 『内務省年報・報告書第三回』（明治10年7月～明治11年6月）による勸業寮養蚕政策

①明治11年の養蚕飼育法の実験

岩代（福島）、信州、上州、武州の養蚕熟練家を招集し飼育実験

室	飼育法	原種数 ア	成繭数 イ	厚繭	薄繭	会繭	出蛾率イア (%)
第一号	清温育	52,121	44,744	37,486	662	3,298	85. 8
第二号	濡熱育	51,676	36,202	29,736	1,822	2,322	71, 0
第三号	濡熱育	45,768	32,478	24,594	968	3,458	71, 0
第四号	清冷育	44,588	39,408	34,810	46	2,275	88. 4
第五号	清涼育	43,399	29,745	24,222	559	2,482	68. 5

両濡熱育は、成績は良くなかった。

②桑苗栽培試験

- ・肥料、桑苗発芽比較試験、小幡、山桑、細江、十文字等の6種類の桑葉収量実験実施。

エ 『内務省年報・報告書第四回』（明治11年7月～明治12年6月）による勸業寮養蚕政策
秋蚕試験の景況、秋採の桑樹翌春に至り四化性の蚕種及び種紙を貯蔵する方法を施行した。

① 秋蚕試験

最近秋蚕が盛んになってきている。特に信州、上州、甲州、相州で盛んである。
次の四回の試験を実施した。

- 第一回 春蚕期に採葉して、秋季に採葉しないもの
- 第二回 春蚕期に採葉して、早秋季に再び採葉したもの
- 第三回 春蚕期に採葉して、晩秋に再び採葉したもの
- 第四回 春蚕期に採葉して、培養を増やしたもの

	第一回 薄付半枚	第二回薄付一枚	第三回薄付六分の一	第四回薄付八分の一
産卵地	上州甘楽郡宮崎村	信州安曇郡稲核村	信州筑摩郡岡本村	信州安曇郡倭村
貯蔵方法		信州安曇郡稲核村の風穴で貯蔵	信州安曇郡稲核村の風穴で貯蔵	
飼養期間	7月15日～ 8月4日	7月27日～ 8月20日	8月10日～ 9月3日	8月20日～ 9月11日
病蚕	2, 244	2, 789	2, 772	1, 543
葉量	42貫132匁	199貫982匁	20貫489匁	10貫915匁
餐数	127回	153回	129回	107回
成繭数	2斗4升	7斗5升7合	2升2合	8合
上等	1斗7升5合	7斗5升	1升8合	5合
連接	3升8合	9升2合	2合	1合
下等	2升7合	1升5合	2合	2合
上等繭一升数	346粒	330粒	296粒	308粒
一升の糸量	6匁9分	8匁6分	6匁9分	—

(2) 新町紡績所建設

岩倉米欧使節団の副使として派遣された大久保利通は英国やフランスで我が国から廉価で購入した屑糸・屑繭からシルクが再生される絹糸紡績工場を見て驚愕し我が国への導入を熱望した。明治政府は明治8年4月絹糸紡績工場の設立を決裁した。佐々木長淳は所長に任命され建設の任に当たり明治10年6月に竣工した。

(3) ミラノ万国養蚕公会

佐々木長淳は明治9年5月にミラノで開催された万国養蚕公会に派遣された。日仏の蚕病の比較表や蛆虫図解について発表した。パスツールがこれを賞賛し名誉副議長に推挙された。

第4 青山御養蚕所

佐々木長淳は英照皇太后の御養蚕指南役として明治12年4月青山御養蚕所御用掛を命ぜられた。長淳は明治19年2月まで上州島村の田島弥平等と共に養蚕に当たり一度の失敗もなかった。

第5 万年会蚕事通信による全国養蚕指導

万年会は明治11年渡辺洪基を中心とする有志により結成された談話会である。長淳は明治16年にこの会員となり、同会の機関誌「万年会報告」に「蚕事通信」と題する欄で全国の養蚕家の質問に

答え養蚕の啓蒙に寄与した。明治 16 年から 20 年までの質疑応答は約 170 件であった。

第 6 巡県養蚕指導

長淳は、明治 18 年から明治 28 年にかけて全国へ養蚕巡回講話を行い、科学的養蚕法の普及に努めた。群馬県 6 回、東京府 1 回、山梨県 1 回、福井県 2 回、静岡県 1 回、滋賀県 1 回、宮城県 3 回、埼玉県 1 回、神奈川県 1 回、愛媛県 1 回となっている。

第 7 佐々木長淳が西欧蚕業視察により我が国の養蚕に与えた影響

1 温度計の普及啓発

温度計は、天保時代に中村善右衛門が製造に成功した。しかし明治当初は温度計が高価であったことや温度管理による飼育に対する認識不足等のために、温度計の使用は普及しなかった。しかし佐々木長淳が欧州の科学的養蚕飼育の重要性の啓蒙に務め、温度計の使用が一般的に行われるようになった。

2 オーガスト温湿度計の導入

我が国における欧州式オーガスト湿度計の導入は、明治 6 年 12 月佐々木長淳が欧州より帰朝の際に持ち帰り使用したのが始まりである。このオーガスト湿度計は正確で狂いが少なく、かつ温度を同時に測定し得る便利さを備えていた。欧州に比較して日本は多湿なため、湿度計使用は温度計の使用と相まって、我が国の養蚕飼育法の進歩に貢献した。

3 顕微鏡検査法の導入・制度化

佐々木長淳は明治 6 年欧州蚕業視察により、蚕体解剖、顕微鏡使用法、ペプリン病毒検査法等を修めた。帰朝後、佐々木は蚕卵を顕微鏡で検査する方法を確立した。明治政府は後年佐々木の方法を元にし蚕病検査規則を制定した。

4 明治 7 年内務省勸業寮内藤新宿試験場の養蚕掛として、養蚕飼育法の実証実験、風穴種の実証実験、秋蚕の実証実験、顕微鏡を用いた蚕病検査法の研究、各種の桑の栽培実験を行い、養蚕飼育の指導や科学的研究を行った。

第 8 順気育法

(1) 順気育とは

順気育は、清涼育と温暖育の両者の長所を取り入れた折衷育である。高山社の清温育との類似点が多いと考えられている。

(2) 他県での取り組み

明治 21 年神奈川愛甲郡依知村山際（現厚木市）に順気社が設立され、翌 22 年に養蚕伝習所神奈川県順気社が設立された。群馬県順気社授業員松井清三郎を招いて生徒の育成や講習講話会の開催や顕微鏡の用方伝習などにより大きな成果を上げ社員 800 名を数えた。更に群馬県の順気社はこの地方に蚕種の提供も行っていった。この順気社には他府県からも伝修生が集まるようになり、愛甲郡、高座郡の蚕種製造家では順気社出身者が良好な成績をあげていた。足柄上郡金田村に順気社分社が設置されていた時期もあった。

また、佐々木長淳は愛甲郡を訪れ、明治 25 年 1 月 14 日には妻田学校、及び 4 月 10 日には、法界寺を会場に養蚕講話を行った。

(3) 群馬県での取り組み

ア 群馬県内での順気育の状況

群馬県には 6 回来県しているが、どこの市町村を訪問したかの記録はあまり残っていない。市町村史等で確認出来るのは、藤岡町、富岡町、黒保根村である。また群馬県立文書館には吾妻郡長野原町、中之条町の養蚕農家の順気社社員証が残されている。群馬県内務部編の『群馬県蚕糸業現況調査書』によれば、順気育の行われている地域として、勢多郡、多野郡、吾妻郡を挙げている。

イ 藤岡町に順気社の創設

明治 20 年 9 月、藤岡町に順気社が創設された。山口正太郎は社長、山田鷲五郎は取締役（後副社長）に就任した。同年 9 月 15 日藤岡町一行寺で開業式典が行われ佐々木長淳の祝詞の他 280 名ほどの参加者があった。順気社は佐々木長淳の順気育を基本とし、蚕業学理と飼育法の伝習、教授員の派遣、蚕種の製造等を業務の柱とした。本社は藤岡町相生町 954 番地に置きこの他社内に蚕学講習所を設置した。『群馬県多野郡史』によれば、明治 39 年 4 月に清国四川省の留学生数十名が来日したが、順気社社長山口正太郎に就いて順気育飼育法を学んだ。以後清国人の来日の都度研修生は増加し、明治 39 年 10 月 7 日「日清学校」が創設された。明治 40 年 3 月第一回の卒業生を出した後、これを藤岡町立の「東蚕学校」と改め藤岡町三丁目に仮校舎を移したが、入学者も乏しくなり後に廃校となった。

第 9 高山社と佐々木長淳

(1) 高山長五郎

高山長五郎は、明治 18 年 10 月 15 日富岡町で開催された佐々木長淳養蚕講話に参加し、蚕体図のスケッチを残している。また農商務省農務局への顕微鏡の申請が困難となり佐々木長淳がそれを聞き提供してくれた礼状が残っている。

高山長五郎は明治 18 年から、蚕種病毒駆除の実行に着手した。町田菊次郎を佐々木長淳の許に派遣し顕微鏡を購入し、同時にその使用法の教授を受けた。

(2) 町田菊次郎

町田菊次郎が農商務省農務局に出張し顕微鏡の申請を行ったが、困難な状況となったので佐々木長淳に購入を依頼した。『高山長五郎氏伝』によれば、「有名なる養蚕家を訪ねて談論討究する所あり。就中、練木喜三、松永伍作に付き蚕病の原因及び之が予防撲滅等の方法を質し、佐々木長淳氏に付き、蚕蛾、蚕卵等の検査方法を研磨せり」との記述がある。

(3) 高山社の名誉会員

佐々木長淳は、高山社の名誉会員として高山社を大所高所から支援すると共に、長淳の息子である佐々木忠次郎も昆虫学や養蚕学の権威として東京帝国大学農学部教授となり、高山社の名誉会員となり高山社を支援した。

第 10 神流川兩岸は我が国の養蚕指導のメッカ

最後に、神流川兩岸は日本の養蚕指導のメッカであったことを強調しておきたい。神流川左岸には、清温育の高山社、順気育の順気社、右岸には一派温暖育の競進社が存在した。いずれも温暖育と清涼育の長所を融合した折衷育である。

高山長五郎や町田菊次郎が推進した高山社は、県内に養蚕指導者を養成する分教場を設置し、県内

各地で養蚕指導を行った他、全国各地に授業員を派遣し養蚕指導を行った。

埼玉県児玉郡に拠点を置く競進社は、高山長五郎の実弟である木村九蔵が主宰する養蚕指導結社であるが、埼玉県内はもとより全国にも授業員を派遣した。

また佐々木長淳の唱える順気育も折衷育であるが、明治 20 年 9 月には藤岡町で順気社が設立され養蚕飼育法の普及に努めた。藤岡町の他、山田鷲五郎顕彰碑には弟子や門弟が県内 30 市町村にまたがっている。

県外では神奈川県愛甲郡依知村を中心に明治 21 年順気社が設立された。群馬県の順気社授業員松井清三郎が招かれ長年に亘り指導を行っている。松井は顕微鏡を提供しその顕微鏡を用いた蚕病予防の方法を伝授し、現地の指導員は熱心に顕微鏡稽古や養蚕講習会を開催している。また佐々木長淳も 2 回神奈川県愛甲郡で養蚕講話会を開催し科学的養蚕法の普及に努めていた。最盛期神奈川県には 800 人の社員がいたといわれている。

高山社は全 47 都道府県に 14, 670 人の授業員を派遣し清温育の飼育法を伝習し地域の養蚕振興に寄与した。外国にも 10 人の授業員を派遣した。

高山長五郎の実弟である木村九蔵は埼玉県児玉郡で一派温暖育（折衷育）を主唱した。大正期には埼玉県、茨城県、群馬県、宮城県、京都府、山形県、和歌山県の 8 府県に 19 の支部を設置した。また授業員の派遣は 1 府 29 県に及んだ。大正 2 年の統計によれば 47 都道府県中 37, 558 人の社員を有し外国にも 10 人の社員がいた。

なお、明治 23 年 4 月から上野公園で開催された第三回内国勸業博覧会において、下記のように高山社と競進社が養蚕の部、順気社が蚕種において優秀な成績を収めた。このことが高山社と競進社の養蚕指導の全国展開の端緒になったと考えられる。

第三回内国勸業博覧会養蚕の部・蚕種の部受賞

繭	進歩一等賞	競進社	繭白玉	蚕種白玉
		養蚕改良会社高山社	繭又昔	蚕種又昔
	有功一等賞	木村九蔵	繭白玉	蚕種赤熱
		町田菊次郎	繭又昔	蚕種又昔
蚕種	有功二等賞	順気社	蚕種	

むすび

佐々木長淳は、西欧で学んだ科学的養蚕法を内務省勸業寮で実践した。当時は養蚕飼育法が乱立し様々な養蚕飼育法が行われていた。このような状況下で佐々木は、福島県、群馬県等で行われていた清涼育、清温育等代表的な 6 つの飼育法について、明治 7 年から 12 年にかけて実証実験を行った。その評価は佐々木自身は行っていないが、実験結果は温熟育等は成果が思わしくなく、清温育や清涼育の成育結果が比較的良好であったといえる。また秋蚕の実証実験や秋蚕と桑のくれ方の研究、信州安曇村稲核の風穴蚕種と普通蚕種を用いた比較実験、顕微鏡を用いた蚕病検査法の研究、桑園を開設し様々な桑を植えるなど、養蚕の基礎学理や飼育法について研究を重ねた。

また西欧から持ち帰った温度計の活用の奨励や日本で初めてオーガスト温湿度計を持ち帰り養蚕飼育に湿度管理の概念を持ち込んだ。なお顕微鏡による蚕病検査を佐々木長淳は日本で初めて習得し、後年政府はその手法の重要性を認識し、佐々木長淳の手法に基づく蚕種検査規則を制定した。

なお明治 9 年島村の田島弥平が内務省勸業寮内藤新宿養蚕掛の佐々木長淳にあてた興味深い書簡がある。それによれば、田島弥平は、佐々木長淳との約定により熊谷県内の養蚕の出来や販売価格の状況、

桑の生育状況、蚕種の出来や販売状況などを報告している。佐々木は勸業寮における養蚕政策の推進にあたりこのような地方の情報を重視していたものと思われる。

明治11年5月大久保利通が没すると、政府の財政緊縮政策が本格化していった。明治12年5月内藤新宿試験場は内務省の管轄から離れ、宮内庁の所管となった。明治14年4月には農商務省に養蚕政策は移管されたが、明治12年から明治16年頃までは、明治政府の養蚕政策は大幅に縮小されほぼ無政策状況となった。明治12年3月に内務省を離職した佐々木長淳は、宮内庁青山御養蚕所養蚕掛、万年会蚕事通信による全国の養蚕家に対する啓蒙指導、全国巡回養蚕講話、養蚕に関する啓蒙図書の発刊、順気育の主唱と順気社の支援、高山社の高山長五郎や町田菊次郎に対する蚕病検査の学理指導、顕微鏡の提供等、全国各地で養蚕指導を行った。また長淳の息子佐々木忠次郎は東京帝国大学農学部教授となり養蚕や蚕病の研究に取り組んだ。

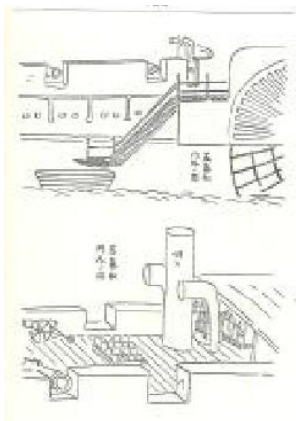
以上みてきたように、日本の生糸輸出が国策で進められる中、肝心の養蚕業の現場は経験と勘に頼る旧来の養蚕法が中心であったことから、繭の安定生産や繭質の向上という課題は解決できずにいた。こうした中、佐々木長淳は、高山社・順気社といった養蚕指導者側の声にも、あるいは全国の養蚕家の切なる声にも真摯に向き合い、支援・助言を与え続けた。西欧の科学的養蚕法を習得し、内務省勸業寮で養蚕法を研究してきた彼の支援・言葉の一つ一つがどれほど心強かったか、想像に難くない。佐々木長淳は明治初期における我が国第一の養蚕指導者であった。佐々木長淳は、明治期の日本の養蚕業の発展に最も貢献した人物であったと言える。以上

参考写真

佐々木長淳
(福井市立郷土歴史博物館蔵)



長淳がスケッチした黒船艦内図
(『松平春嶽全集3』)



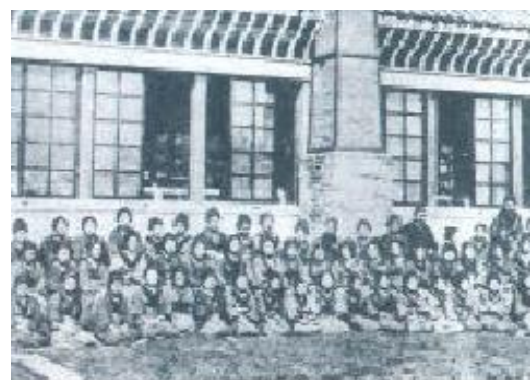
長淳が製造した洋式帆船一番丸
(福井県こども歴史文化館)



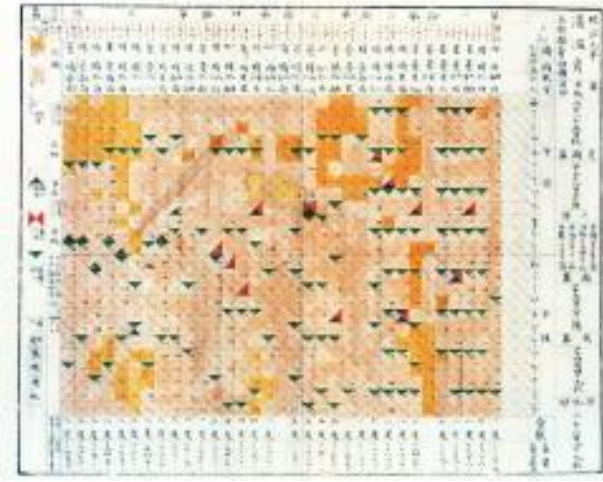
長淳が建築を担当した勸工寮葵町製糸場位置図
(東京農工大学科学博物館展示)



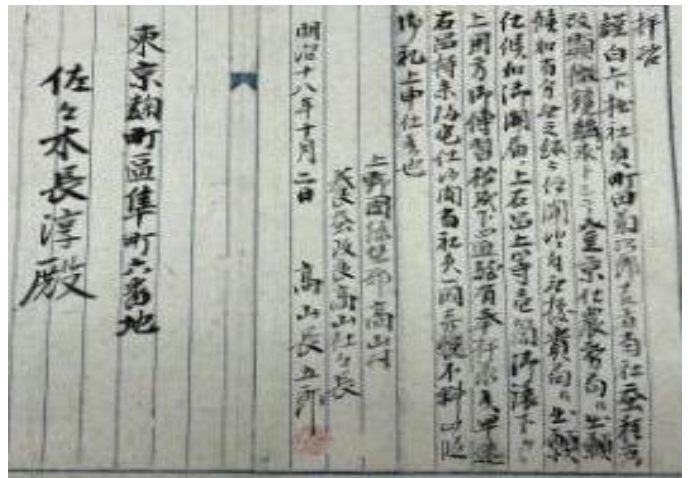
勸工寮葵町製糸場
(『幕末・明治古写真帖 愛蔵版』)



長淳が内務省勸業寮で行った養蚕飼育法実証実験
 (『内務省年報・報告書第二回』)



高山長五郎から佐々木長淳へ顕微鏡提供の御礼
 (群馬県立歴史博物館蔵)



高山長五郎が明治18年10月15日富岡町で開催された佐々木長淳の講話を聞き筆記した蚕体図 (群馬県立歴史博物館)

